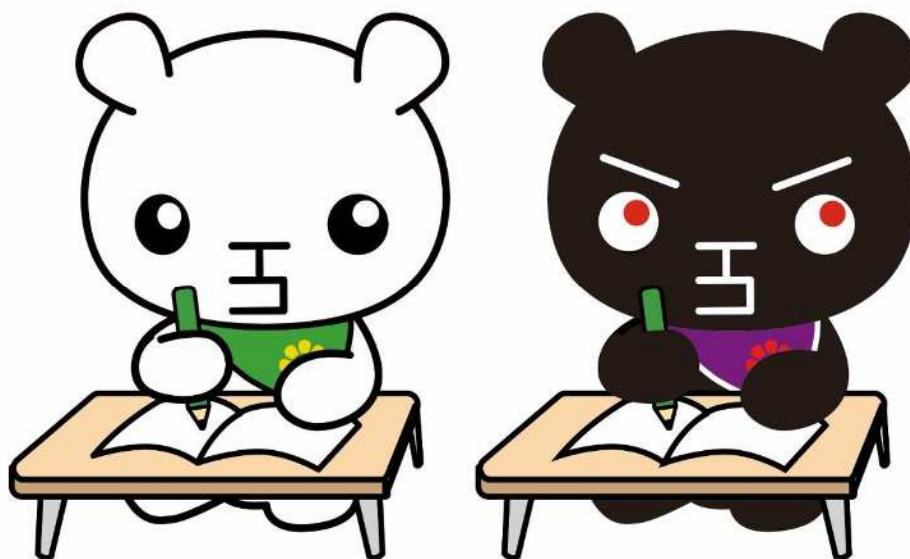


2 各教科の分析



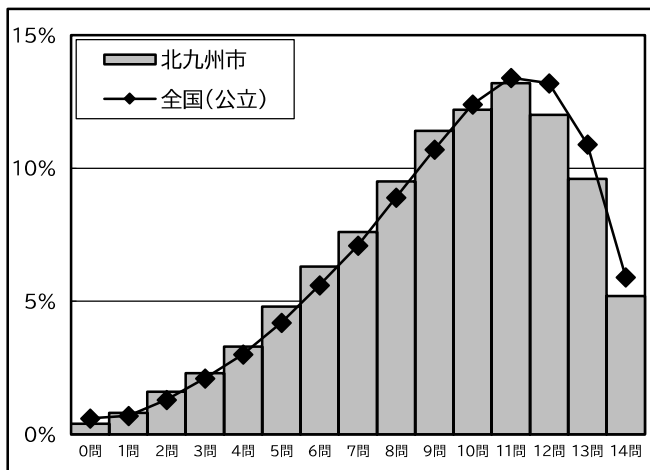
(1)小学校国語

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果[小学校 国語]

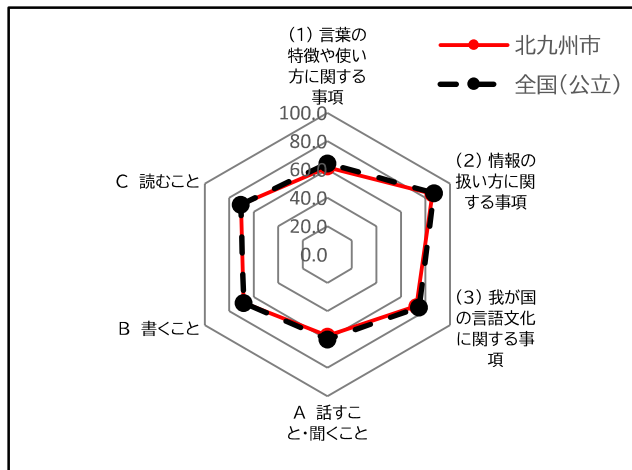
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,046	9.3 / 14	66	10.0	3.1
全国(公立)	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

<正答数分布グラフ>



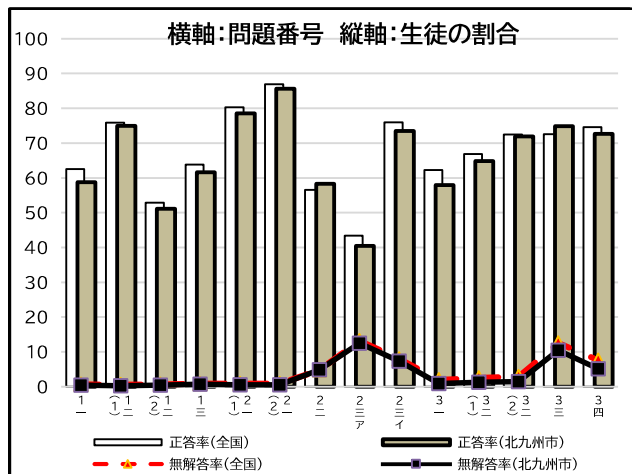
<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
				北九州市	全国 (公立)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	4	61.7	64.4
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	85.6	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	72.7	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.2	59.8
		B 書くこと	2	68.4	68.4
		C 読むこと	3	70.5	70.7
評価の観点	知識・技能		6	67.5	69.8
	思考・判断・表現		8	65.0	66.0
問題形式	選択式		10	67.8	69.9
	短答式		2	57.0	59.7
	記述式		2	66.6	64.6

<問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」>



<結果>

- 「思考・判断・表現」の「書くこと」の正答率が全国比と同等であった。
- 問題形式別の「記述式」の正答率が全国比より上回っている。(R5: -1.8、R6: +2.0)
- 「知識・技能」の全国比が昨年度より大幅に下がっている。(R5: +0.5、R6: -2.3)
- 「思考・判断・表現」の「話すこと・聞くこと」の正答率が全国比より下回っている。(R6: -2.6)

<今後の授業改善の方向性: 方策>

「題材の設定、情報の収集、内容の検討」に焦点を当てた指導の充実

- ・ 目的や意図に応じて話題を決めたり、集めた材料を分類・関係付けたりして、伝え合う内容を検討する場を日常生活と関連付けながら設定していく。

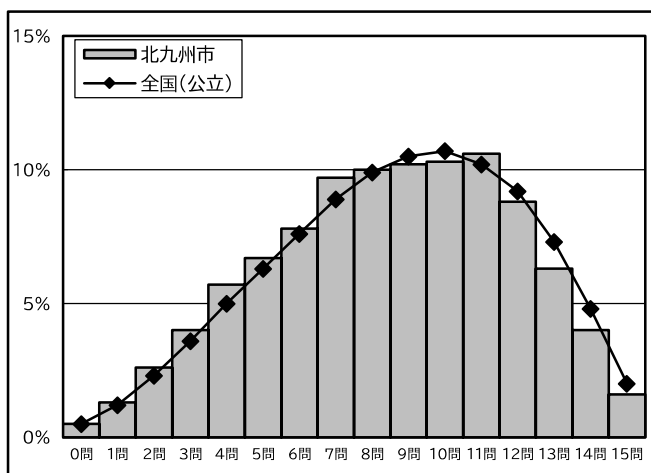
(2)中学校国語

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果[中学校 国語]

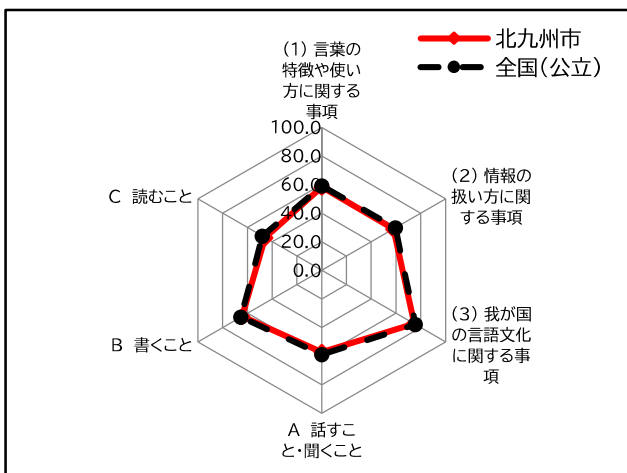
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,609	8.5 / 15	57	9.0	3.3
全国(公立)	875,547	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

<正答数分布グラフ>



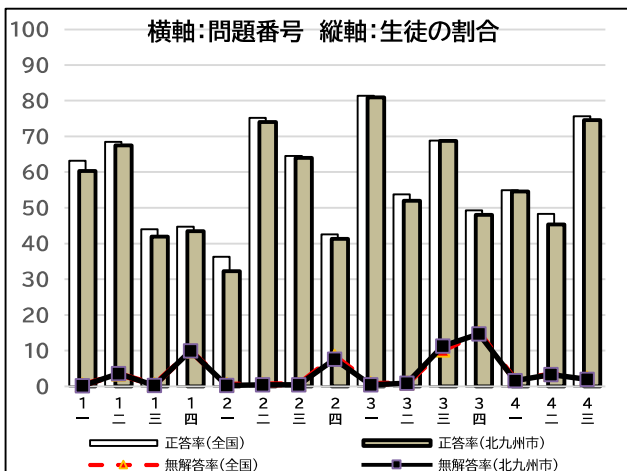
<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
				北九州市	全国 (公立)
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	58.4	59.2
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	58.0	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	74.6	75.6
	思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	3	57.1	58.8
		B 書くこと	2	64.4	65.3
		C 読むこと	4	45.7	47.9
評価の観点	知識・技能	6	61.0	62.0	
	思考・判断・表現	9	53.7	55.4	
問題形式	選択式	9	59.4	61.0	
	短答式	3	60.5	61.8	
	記述式	3	44.3	45.5	

<問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」>



<結果>

- 「思考・判断・表現」の「書くこと」の正答率に改善がみられた。(R5: -3.4, R6: -0.9)
- 正答率の分布は、13～15問の上位層で全国との差が大きく開いている。
- 「思考・判断・表現」の観点において課題がみられる。(R5: -1.3, R6: -1.7)
- 「思考・判断・表現」の「読むこと」において課題がみられる。(R5: -1.1, R6: -2.2)

<今後の授業改善の方向性: 方策>

文章と図表などを結び付け、内容の理解に生かす活動の充実

- ・ パンフレットや雑誌の記事等、図や写真などを含む説明的文章を取り上げ、文脈を踏まえた上で、図表などがもつ役割について考える学習活動を取り入れる。

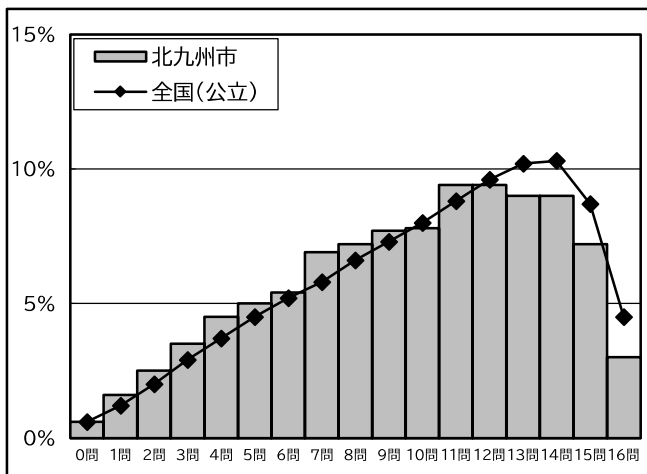
(3)小学校算数

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果[小学校 算数]

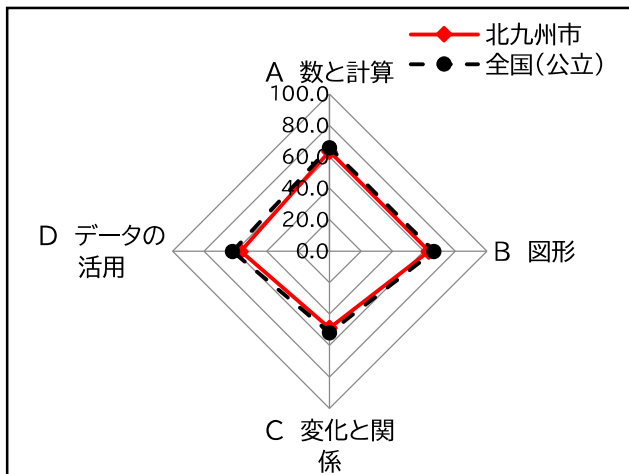
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	7,046	9.6 / 16	60	10.0	3.9
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

<正答数分布グラフ>



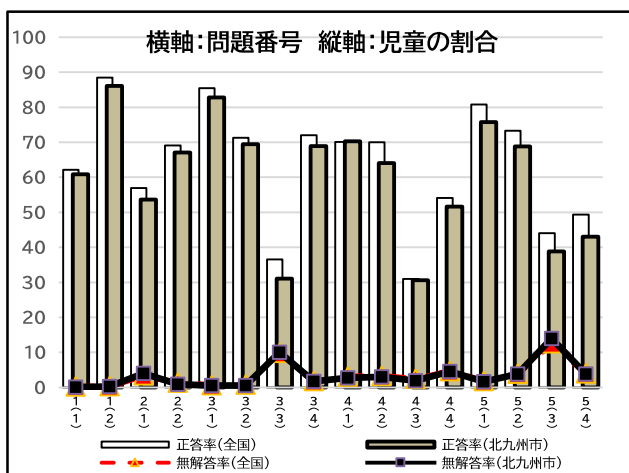
<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	63.5	66.0
	B 図形	4	63.1	66.3
	C 測定	0		
	C 変化と関係	3	48.8	51.7
評価の観点	D データの活用	4	56.6	61.8
	知識・技能	9	70.3	72.8
問題形式	思考・判断・表現	7	47.2	51.4
	選択式	5	73.3	75.3
	短答式	7	57.8	62.0
	記述式	4	48.0	51.0

<問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」>



<結果>

- 「知識・技能」の正答率の全国比が昨年度より上がっている。(R5:−3.9、R6:−2.5)
- 「思考・表現・判断」の正答率の全国比は昨年度より下がっている。
(R5:−3.1、R6:−4.2)
- 「データの活用」領域において、全国との差が開いている。(R5:−4.0、R6:−5.2)
特に、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる記述式の問題では、正答率の低さがみられる。

<今後の授業改善の方向性:方策>

系統性を意識した数学的活動の充実

- ・ 単元を通して、授業の中で、言葉や図、数、式、グラフなどを適切に用いて、思考の過程や判断の根拠などを表現したり、説明したりする活動を取り入れる。

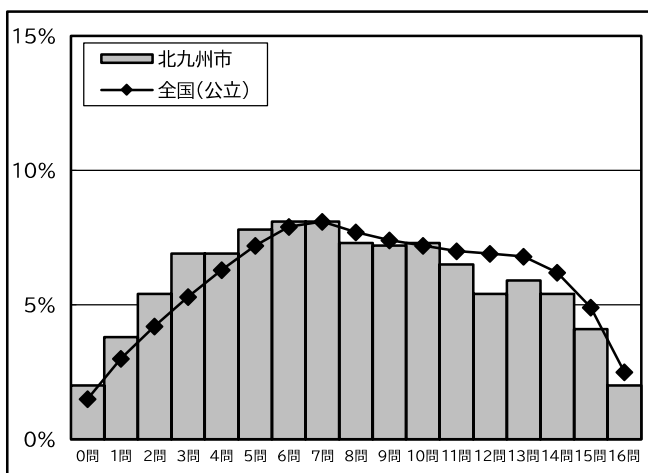
(4) 中学校数学

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果[中学校 数学]

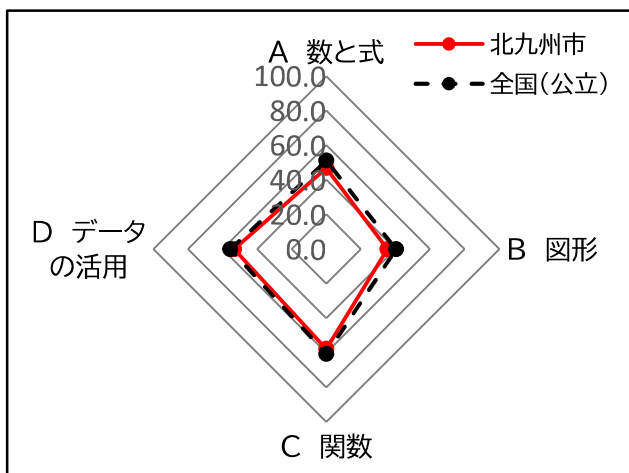
<集計値>

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北九州市教育委員会	6,615	7.8 / 16	49	8.0	4.2
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

<正答数分布グラフ>



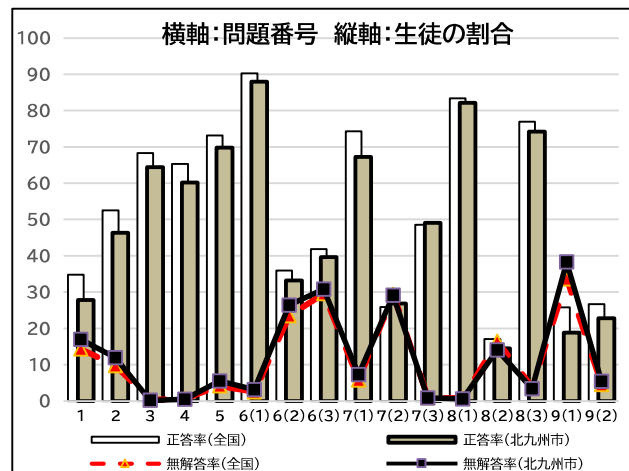
<領域別平均正答率>



<区分別平均正答率の状況>

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			北九州市	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	46.9	51.1
	B 図形	3	35.3	40.3
	C 関数	4	57.7	60.7
	D データの活用	4	53.3	55.5
評価の観点	知識・技能	11	59.3	63.1
	思考・判断・表現	5	26.6	29.3
問題形式	選択式	5	55.7	58.5
	短答式	6	62.2	67.0
	記述式	5	26.6	29.3

<問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」>



<結果>

- 「思考・判断・表現」の「データの活用」(記述式問題)で、正答率が全国比を上回った。
- 「知識・技能」では、全国との差が開いている。(R4:-5.4、R5:-2.0、R6:-3.1)
- 図形の証明問題では、全国との差が大きかった。(R6:-7.0)

偶数の表し方や、式とグラフの関係性、最頻値を求める問題など、どの領域においても知識の定着に課題がみられた。

<今後の授業改善等の方向性>

事象を数学化したり、数学的に解釈する場面での指導の工夫

- ・ 意味理解を伴った知識・技能の定着を意識した授業改善を図る。

概念は知識の暗記訓練ではなく、深い学びを実現する上で欠かせないものである。

よって、数学を日常の事象の考察に生かしたり、単純化するなどの場面で、その必要性や意味について理解を深める活動を充実する。